

自主防災組織担当職員向け
自主防災組織リーダー育成のための研修会

－ 知り、わが事として考え、行動につながる －

令和8年1月15日

株式会社サイエンスクラフト

竹本 加良子

<目標>

- 住民が主体的に参加し、行動変容につながる研修のポイントを理解する
- 既存のプログラムや教材等（消防庁）を効果的に活用できるようになる
- 住民研修の企画・進行の工夫や実践的ノウハウを持ち帰り、今後の現場で活かせる状態になる

<項目>

1. 目指したい自主防災育成研修とは
2. 企画・準備のコツ・ポイント
3. 消防庁が提供する研修教材の紹介

1

目指したい自主防災育成研修
とは

皆さんは、どのようなことを目標に
防災リーダー向け研修を
行っていますか？

1:防災研修で目指す大事なコト

- **自主防災組織は、“地域住民の行動” に支えられている**
 - 平時の備え：耐震化、備蓄、防災訓練への参加 など
 - 発災時：安否確認、初期消火、避難、避難所運営 など
- **リーダーの役割は“知識を伝えること”ではなく
“住民を動かすこと”**
 - 研修が「わかった」で終われば、災害時には役に立たない



**行動変容を促す研修が
災害時の実効性を高める鍵**



どうすればリーダーが関心・感心し、
行動変容につながる研修に
なるのでしょうか？

1:防災リーダー向け防災研修がうまくいかない理由と、改善の方向

<よくある課題>



- 参加者が**受け身**で、眠そうになる
- **自分事**として**考えてもらえない**
- 話は聞くが、**行動につながらない**



<受講者の心理変化>



1. **興味・関心**を感じる
(ちょっと気になる状態になる)
2. **自分事化**する
(自分や家族のこととして考える)
3. **できそう、やってみよう**と思う
(小さな一歩を踏み出そうと決める)

①興味を感じる段階をつくる



- まず自分ごとに近づける「**入口**」を作る
- 危機感を煽るだけでなく、**関心のスイッチ**を入れることが大事

<講師の働きかけ>

- 地域や暮らしに直結する**事例**を示す
- 驚きや発見のある**写真・データ**を提示する
- 「もし今この町で〇〇が起きたら？」などの問いかける



近年の主な災害を思い出す … 毎年大きな災害が発生している

2011年	3月11日	東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)【震度7、大津波】
2013年	4月13日	淡路島付近の地震(淡路島地震)【震度6弱】
2014年	8月	平成26年8月豪雨(土砂災害)
	9月	御嶽山噴火
	11月22日	長野県神城断層地震(長野県北部地震)【震度6弱】
2015年	9月	平成27年9月関東・東北豪雨
2016年	4月16日	平成28年熊本地震【震度7】
2017年	7月5～6日	平成29年7月九州北部豪雨
2018年	6月18日	大阪府北部を震源とする地震(大阪大阪北部地震)【震度6弱】
	6月28日～	平成30年7月豪雨
	9月6日	北海道胆振東部地震【震度7】
2019年	9月	令和元年房総半島台風(台風15号)
	10月	令和元年東日本台風(台風19号)
2020年	7月	令和2年7月豪雨
2021年	2月13日	福島県沖地震【震度6強】
2022年	7月3日	7月1日から3日の東海地方・関東地方南部を中心とした大雨(熱海伊豆山土石流災害)
	8月7日～	令和3年8月の大雨
2023年	3月16日	福島県沖地震【震度6強】
	6月15日	石川県能登地方を震源とする地震【震度6弱】
	9月17日～	令和4年台風第14号
	5月5日	石川県能登地方を震源とする地震【震度6強】
2024年	1月1日	令和6年能登半島地震【震度7】

過去の地震・津波災害を思い出す【東日本大震災】

近年日本各地で発生している地震災害①

東日本大震災

2011年（平成23年）3月11日

（海溝型でM9.0という非常に大規模なものであったため、地震に伴い発生した津波の規模も非常に大きく、今回の震災による被害は津波に起因するものが大半。）



写真提供：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」

<https://www.saigaichousa-db-isad.jp/>

過去の地震・津波災害を思い出す【平成28年熊本地震】

近年日本各地で発生している地震災害②

平成28年熊本地震

2016年（平成28年）4月14日以降

（最初の震度7の地震は4月14日21時26分、2回目の震度7の地震（本震）は4月16日。最大震度7（2回）。

木造家屋や文化財の倒壊、益城町などで甚大な被害。阿蘇大橋の崩落や南阿蘇村での大規模土砂災害。災害関連死が問題化。）



（一財）消防防災科学センター
<http://www.isad.or.jp/>

過去の地震・津波災害を思い出す【大阪府北部を震源とする地震】

近年日本各地で発生している地震災害③

大阪府北部を震源とする地震

2018年（平成30年）6月18日

地震による死者は6名、うち2名がブロック塀の崩落に巻き込まれて死亡。



過去の地震・津波災害を思い出す【北海道胆振東部地震】

近年日本各地で発生している地震災害④

北海道胆振東部地震

2018年（平成30年）9月6日

住宅の倒壊や道路の損壊が多数発生したほか、200箇所を超える土砂災害が発生。

地震の影響により、道内主力発電所の運転が停止したことに伴い、電力需給バランスが大きく崩れ、道内全域の発電所が停止し、道内全域で長時間にわたる停電が発生したほか、多くの市町村で断水が発生するなど、ライフラインにも大きな被害が発生。



(一財) 消防防災科学センター
<http://www.isad.or.jp/>

過去の地震・津波災害を思い出す … 令和6年能登半島地震

近年日本各地で発生している地震災害⑤

令和6年能登半島地震

2024年（令和6年）1月1日

石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生。

北海道から九州地方にかけての日本海沿岸を中心に津波が発生。



過去の地震・津波災害を思い出す …… 令和6年能登半島地震

近年日本各地で発生している地震災害⑤

令和6年能登半島地震

2024年（令和6年）1月1日

石川県、新潟県及び富山県の3県で17件の火災が発生。

石川県輪島市では、区域内の建物が約240棟焼損する大規模火災が発生。



過去の風水害を思い出す … 平成26年8月豪雨

近年日本各地で発生している風水害①

平成26年8月豪雨

平成26年8月19日夜から翌20日明け方にかけて、広島市を中心に猛烈な雨となり、広島市安佐北区及び安佐南区では、同月20日未明に複数箇所で大規模な土砂災害が発生。



広島市安佐南区上空からの被害状況
(国土地理院提供)

過去の風水害を思い出す …… 平成29年九州北部豪雨

近年日本各地で発生している風水害②

平成29年九州北部豪雨

猛烈な雨の影響で、山間部の中小河川が増水、氾濫し、土砂崩れ等が発生。

河川の氾濫、土砂災害等により、特に甚大な被害が発生した朝倉市、東峰村及び日田市では、道路崩壊、鉄道橋流失、土砂流入、冠水等により交通が寸断され、多数の集落が孤立状態。



朝倉市松末地区の被害状況
(兵庫県消防防災航空隊提供)

過去の風水害を思い出す …… 平成30年7月豪雨

近年日本各地で発生している風水害③

平成30年7月豪雨

各地で河川の氾濫による浸水や土砂崩れ等が発生し、特に岡山県、広島県及び愛媛県においては、多数の死者が発生。

長引く大雨により、西日本の多くの市町村において、避難指示(緊急)及び避難勧告等が発令され、ピーク時には避難者数が4万人超に。

道路崩壊等による孤立集落や電気・ガス・水道等のライフラインの寸断が発生。



岡山県倉敷市真備町
(東京消防庁提供)

過去の風水害を思い出す …

近年日本各地で発生している風水害④

令和元年台風15号災害

台風による大雨と暴風により、千葉県を中心に7万4,900棟を超える住家被害が発生するなど甚大な被害。

千葉県では、暴風により、多数の住宅において屋根瓦の飛散などの被害が発生。

送電線の鉄塔や電柱の倒壊、倒木や飛散物により、配電設備の故障するなどして、千葉県を中心に、大規模停電が長期間にわたり発生。



画像・映像で、起こりうる被害のイメージを深める

- 地域の被害想定に応じて、地震の揺れによる「被害」・「影響」の種類や危険性について、動画や写真を用いて説明する
- 「災害写真データベース」(基本的に著作権フリー) を利用する

<https://www.saigaichousa-db-isad.jp/>

- 「防災・危機管理eカレッジ」などの映像(動画)を使っただけのも、イメージ促進に活用するのも有効

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/>



地震・津波による被害と影響

建物の倒壊



(財) 消防科学総合センター
<http://www.isad.or.jp/>

地震・津波による被害と影響

ブロック塀・ 石垣の倒壊



(一財) 消防防災科学センター
<http://www.isad.or.jp/>

地震・津波による被害と影響

家具の転倒、
モノの散乱



地震・津波による被害と影響

道路被害



地震・津波による被害と影響

土砂災害



(一財) 消防防災科学センター
<https://www.isad.or.jp/>

地震・津波による被害と影響

津波による 破壊



写真提供: Yahoo! JAPAN
東日本大震災 写真保存プロジェクト

地震・津波による被害と影響

液状化



地震・津波による被害と影響

延焼火災



地震・津波による被害と影響

停電



地震・津波による被害と影響

断水／
ガス供給停止



給水車による給水

地震・津波による被害と影響

下水道使用不可

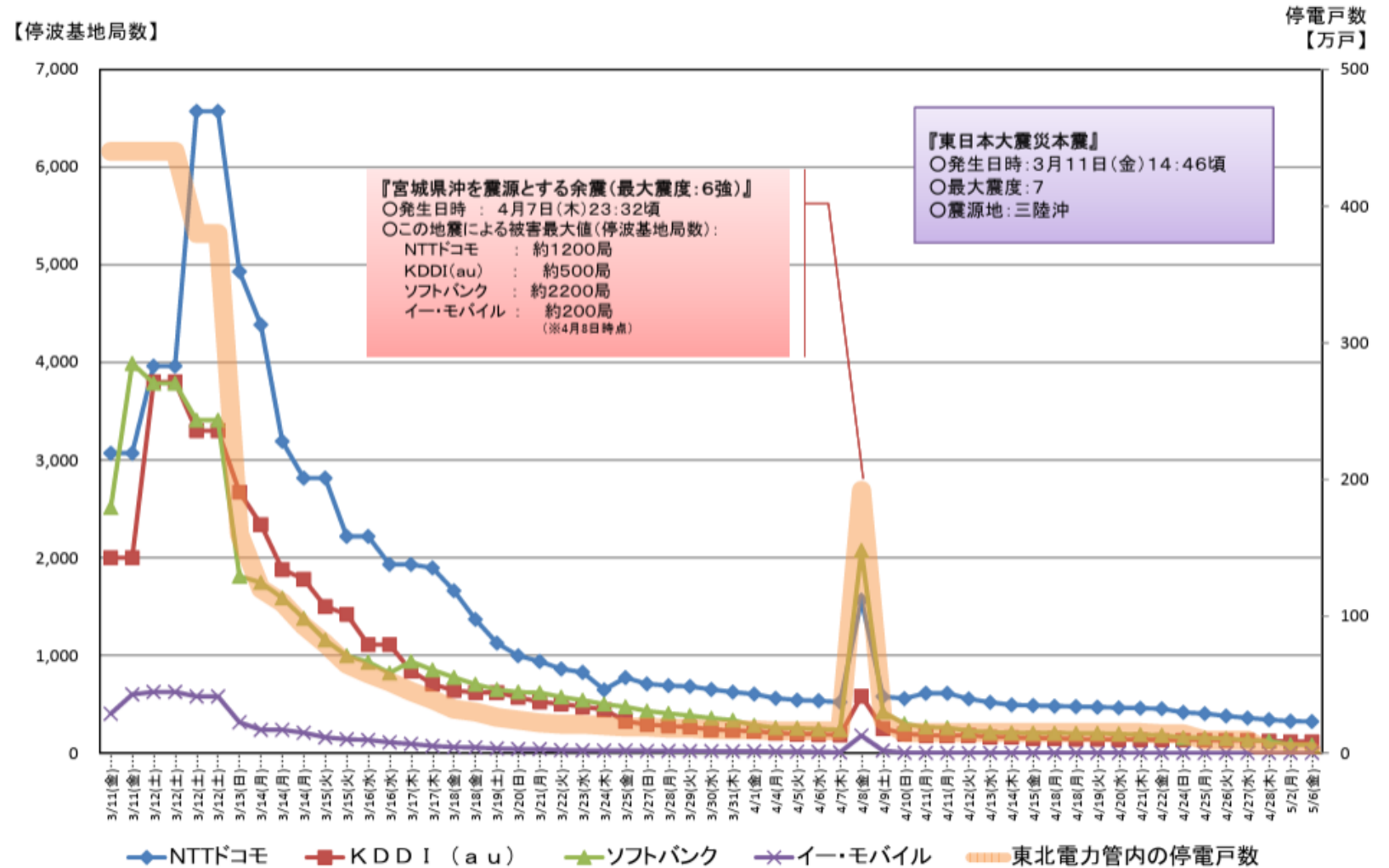


仮設トイレが到着するまでに、汚物の山

地震・津波による被害と影響

携帯電話基地局の停波基地局数の推移

電話使用不可／
ネット使用不可



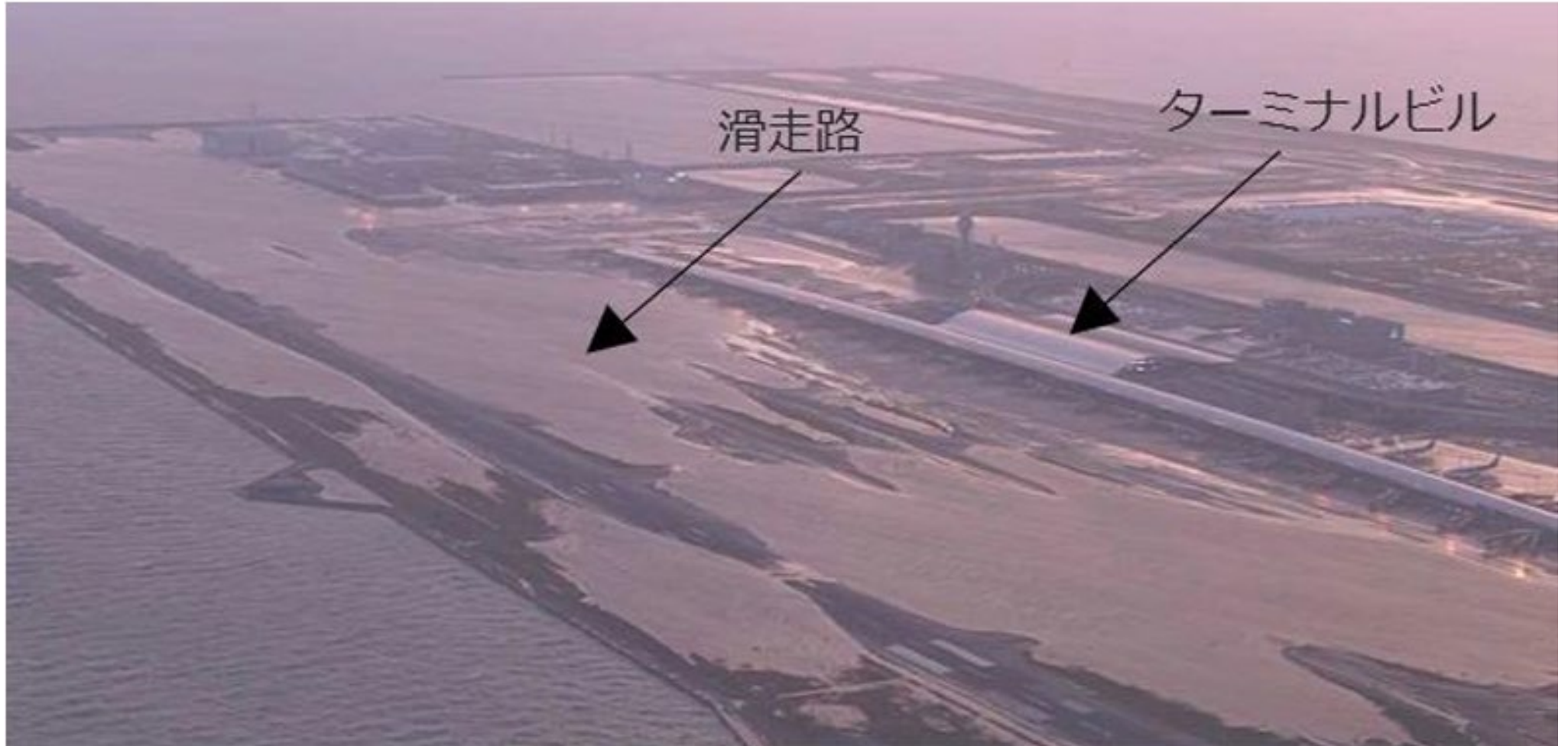
大雨・台風による被害と影響

河川の氾濫による 浸水(外水氾濫)



大雨・台風による被害と影響

高潮による
浸水



大雨・台風による被害と影響

風害



大雨・台風による被害と影響

がけ崩れ、地すべり、
土石流



大雨・台風による被害と影響

停電



電柱の倒壊

大雨・台風による被害と影響

断水



大雨・台風による被害と影響

通信障害

停電や伝送路断など



台風（沖縄県宮古島市）

大雨・台風による被害と影響

下水道

(施設被害、停電
などによる)



(財)消防科学総合センター
<http://www.isad.or.jp/>

②自分に関係あると思う段階をつくる

- 「自分や家族に当てはまるかも」と考え始める
- 自宅や地域の状況に置き換えて想像する



<講師の働きかけ>

- 被害想定やハザードマップ、避難所情報を自分の住所で確認させる
- 「あなたならどうしますか？」形式の質問を提示する
- 家族構成・持病・年齢など、自分ごとの条件で考えるワークを行う

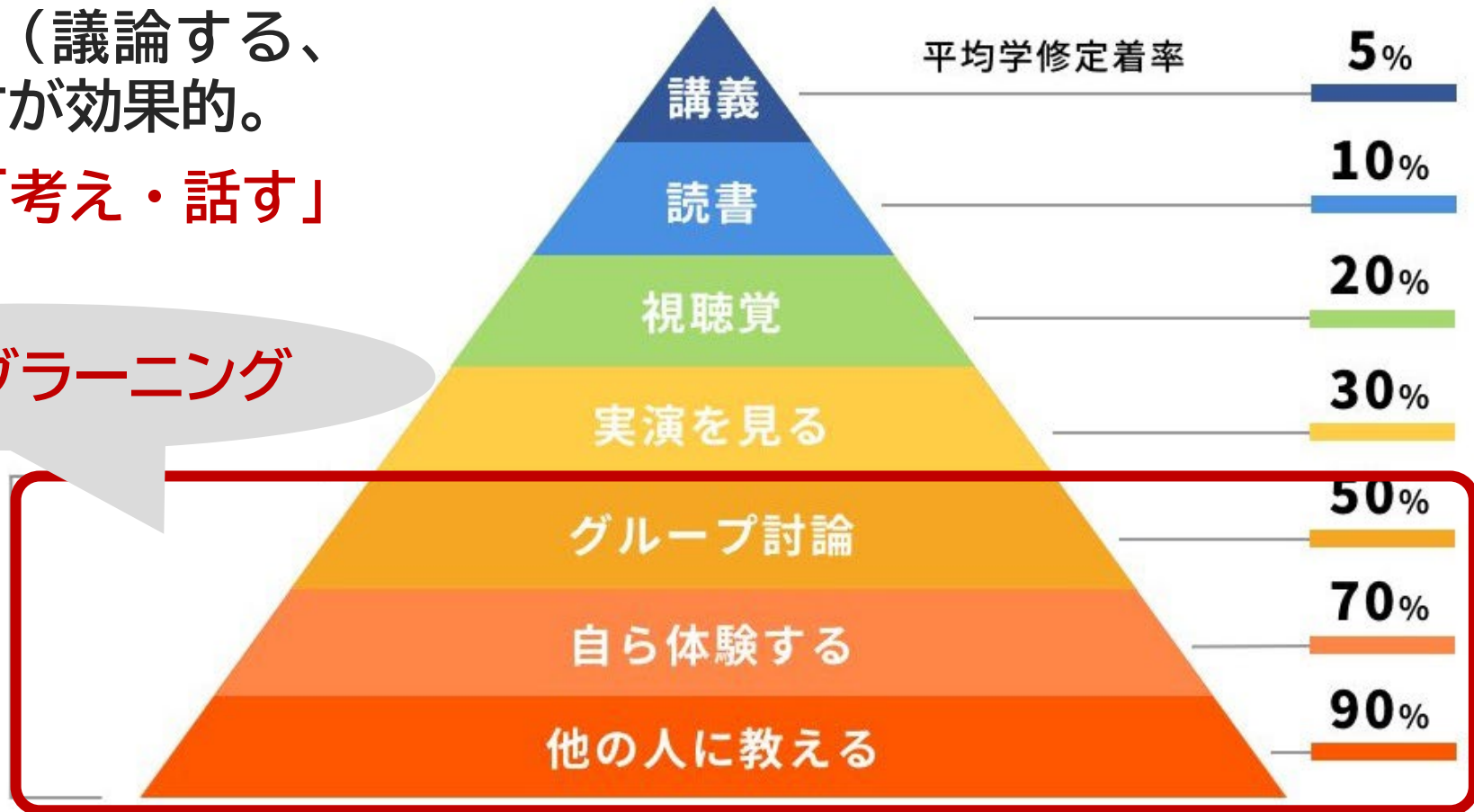
アクティブ
ラーニング



ラーニングピラミッド … 学習方法ごとの定着率を図示したモデル

- 人は「学び方」によって**記憶・理解の定着度合い**が大きく異なる。
- 受動的な学習（講義を聞く、読む）よりも、**能動的な学習**（議論する、実践する、教える）の方が効果的。
- 「教えられる」より、「**考え・話す**」時間を多くする。

アクティブラーニング

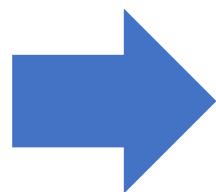


アメリカ国立訓練研究所
(National Training Laboratories)
勉強の仕方を定着率順に並べたもの

【アクティブラーニング】「クイズ」で考えて、回答を知る、なぜかを理解する



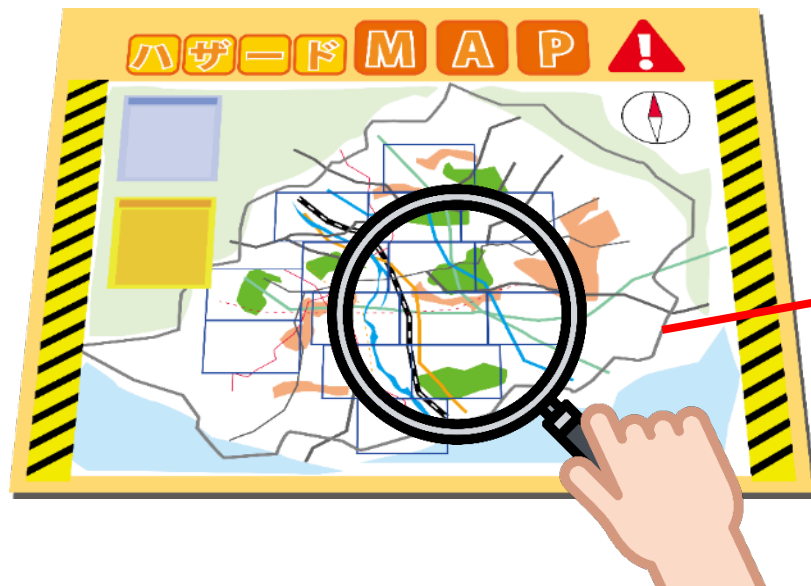
質問する



正解 + 解説する

【アクティブラーニング】 調べて書き込む。他の人に説明して、理解を深める

現地・現物



私の避難行動マップ

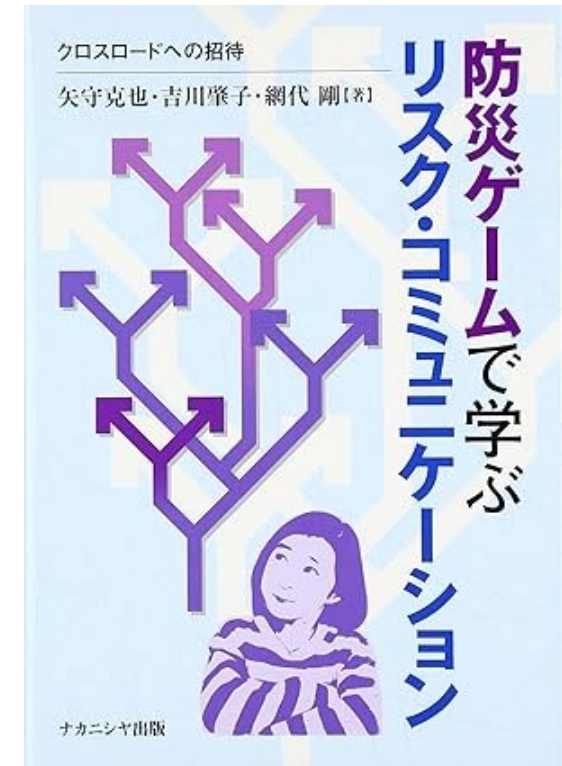
地震編		風水害編				
<p>◆被害想定</p> <p>想定強度 最大</p> <p>想定津波 浸水あり・浸水なし 浸水深 m</p> <p>◆危険度</p> <table border="1"> <tr> <td>建物倒壊危険度</td> <td>火災危険度</td> </tr> <tr> <td>災害時活動困難係数</td> <td>総合危険度</td> </tr> </table> <p>液状化の危険性</p>		建物倒壊危険度	火災危険度	災害時活動困難係数	総合危険度	<p>◆被害想定</p> <p>浸水想定（目黒川・立会川等） 浸水あり・浸水なし 浸水深 m～ m未満</p> <p>浸水想定（多摩川水系） 浸水あり・浸水なし 浸水深 m～ m未満</p> <p>高潮浸水想定 浸水あり・浸水なし 浸水深 m～ m未満</p> <p>浸水継続時間</p>
建物倒壊危険度	火災危険度					
災害時活動困難係数	総合危険度					
<p>◆私の避難先</p> <p>一時集合場所</p> <p>区民避難所</p> <p>広域避難場所</p> <p>津波から避難する場所</p>		<p>◆私の避難行動</p> <p>河川や高層による浸水が想定されるとき</p> <p>最奇りの避難場所への避難が原則 ただし、避難することがかえって危険な場合は、建物の中で垂直避難する</p>				
		私の避難行動シート				
		No. 060450001				

【アクティブラーニング】 自分が選択する行動を考え、意見交換する

- クロスロードは、防災教育でよく使われる代表的な意思決定型ゲーム
 - ✓ 阪神・淡路大震災の被災経験をもとに生まれた
- 【形式】 提示された状況に対して「YES／NO」で判断を迫られる**二者択一型**のゲーム
- 【進め方】 参加者が自分の選択を示したあと、**その理由を話し合い、互いの考えを共有する**
- 【ジレンマ】 どちらを選んでも一長一短があり、**「唯一の正解はない」**問いが多い

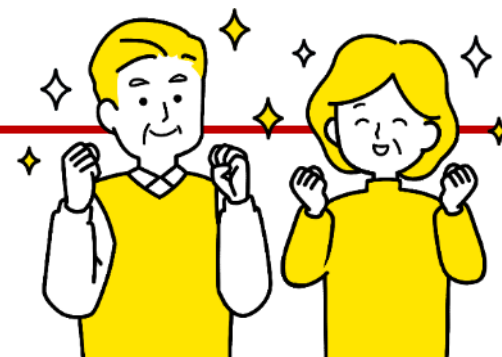
「わが事化」
を促す

多様な価値観
の理解



③ やってみようと思う段階をつくる

- 小さな行動を実際に**やってみよう**と決める
- **家族や仲間**に話そうという気持ちになる



<講師の働きかけ>

- 今日できる小さな行動例を提示
(例:家具の固定点検、避難先の共有)
- その場で行動宣言する
(紙に書き出す⇒グループ内で共有する)
- ミニ体験する (防災グッズの確認、避難経路の確認ワーク)

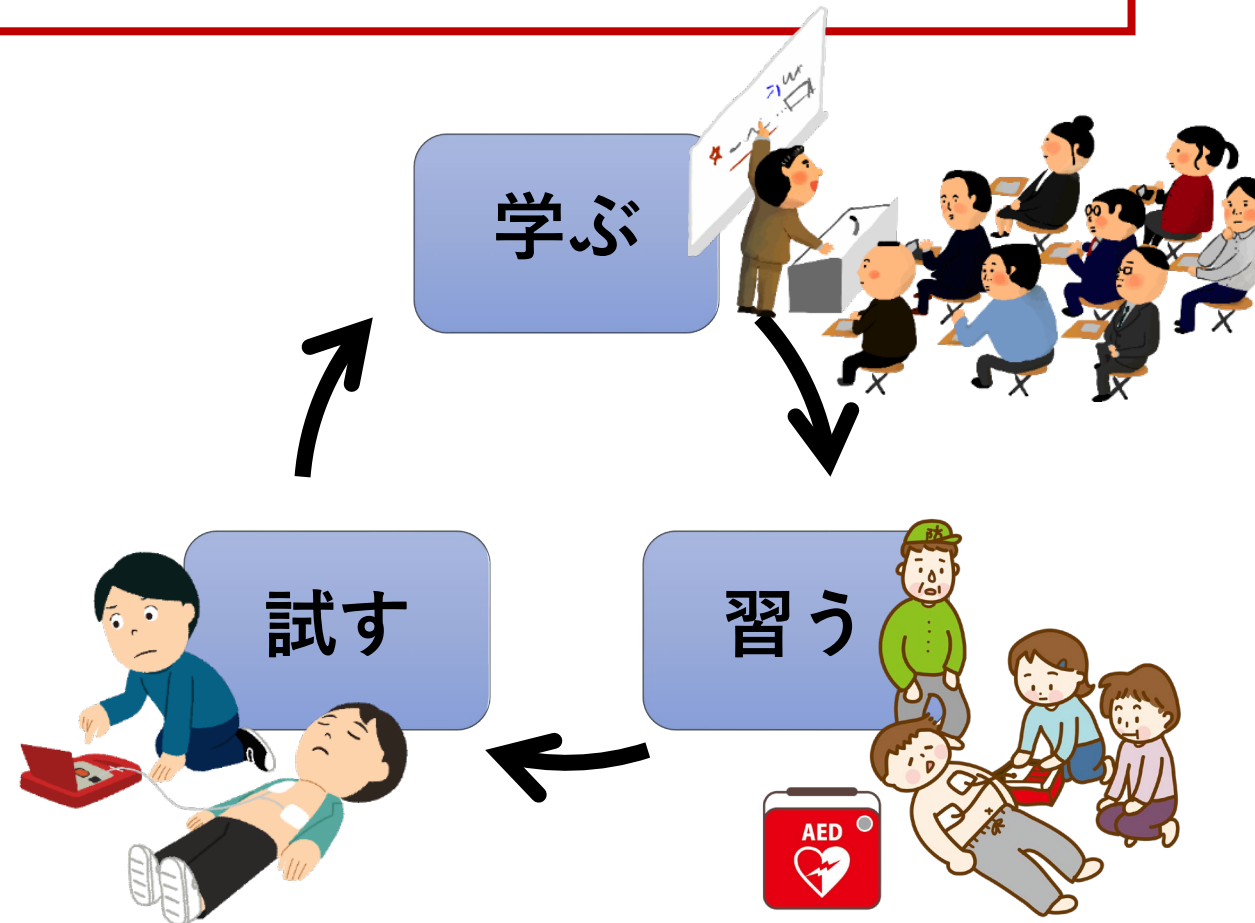


④研修効果を高める方法：座学＋実動訓練

- 「座学」知識・背景・考え方を**学び・理解する**時間と、
「実動訓練」学んだ内容を実際に**習い・試す**時間を**組み合わせる**

<効果>

- 学んだことが記憶に残りやすい
- 「できた！」という達成感が次の行動を促す
- 住民同士の交流・信頼関係が生まれる



2

企画・準備のコツ・ポイント

目指したい研修成果

- 研修目標を達成できている
 - 満足、理解、目標達成
- 研修後に、「学んだことを周囲に話してみよう」とか、「地域・家でやってみよう」と思ってもらえる

「実際にやってもらえる」 ← **行動変容**

よりよい研修を行うための
コツ・ポイントを見ていきましょう！

研修プログラム・教材開発のコツ・ポイント

項目	主な問題点	解決の方向性(案)
①学習の流れ	<ul style="list-style-type: none"> 研修の目標(研修後の姿)を知らせていない まとめがない 	<ul style="list-style-type: none"> 【入口】 学習目標を知らせる 【出口】 学んだ重要ポイントを確認、研修後にやるべき行動を伝え、促す
②学習内容の流れ	<ul style="list-style-type: none"> 理解・納得しやすい流れになっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関する学習の流れにする <ul style="list-style-type: none"> 1)災害による被害と影響 2)災害時に取るべき行動 3)日頃の対策、備え
③リスクの理解	<ul style="list-style-type: none"> 取組の前提となる、知っておくべき「リスク」についての学びがない 	<ul style="list-style-type: none"> リスクについても学ぶ まち歩きして、マップを作る 【現地】 ハザードマップの見方を学び、実際に「わが地域」について調べてみる 【現物】
④災害種別での違い	<ul style="list-style-type: none"> 1つのコンテンツに、「地震・津波災害」と「風水害」が混在している 	<ul style="list-style-type: none"> 災害種別ごとにコンテンツを作成する

教材開発のコツ・ポイント（つづき）

項目	主な問題点	解決の方向性(案)
⑤地域特性、個人特性(要配慮)	<ul style="list-style-type: none"> 特性への着目がない 	<ul style="list-style-type: none"> 特性について学ぶのは時間が必要 中級で対応
⑥学びの範囲	<ul style="list-style-type: none"> 「発災直前・直後の対応」と「備え」について学んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの範囲(フェーズ、立場(個人/組織))を決める 避難生活(避難所/在宅)について学ぶ必要はないか？
⑦講師	<ul style="list-style-type: none"> 専門的であればあるほど、知識が必要 教えるスキルが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な内容は、担当課の職員や災害対応経験のある職員が講師になる 既存の動画コンテンツを利用
⑧研修効果	<ul style="list-style-type: none"> 不明 アンケートで感想を把握する程度 	<ul style="list-style-type: none"> 研修目標に沿って、確認テストやアンケートで評価し、改善していく(繰り返す)

様々な学習の手法（研修内や、単元内で組み合わせる）

主な手法	主な取組内容
座学(講義)	<ul style="list-style-type: none"> 講師から説明を聞き、知識を習得する
個人ワーク	<ul style="list-style-type: none"> 一人で出された課題について作業する 例) マイ・タイムラインづくり
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> グループで出された課題について検討し、意見をまとめる 最後に、各グループの結果を発表する 例) 付箋紙に書いた意見を模造紙に張り出し、まとめる
クイズ	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で知識を学ぶ
ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> 避難所運営ゲーム HUG、クロスロード
実技	<ul style="list-style-type: none"> 初期消火、担架搬送、AED、車いす避難、防災食調理などの使い方や、やり方を学び、技術を身につける
体験	<ul style="list-style-type: none"> 起震車、煙体験、VR
まち歩き&防災マップ作り	<ul style="list-style-type: none"> 地域を歩いて、危険な場所や災害時に役立つもの等を確認・記録し、会場に戻って地図に書き込んでまとめる 作成したマップを基に、気づいたこと・話し合ったことを発表
体験談(講話)	<ul style="list-style-type: none"> 語り部や、先進的な取組を行っているリーダー等の話を聞く

分かりやすいスライド作成のコツ・ポイント（視認性をよくする）

● 文字はユニバーサルフォント

- ✓ Windows10へ標準搭載
- ✓ モリサワUDフォント3種は無償で利用可

● 分かりやすい配置

- ✓ 重要なこと、概要は上
- ✓ 過去や、感覚的な写真・グラフは左
- ✓ 関連性の高いものは近づける



● 情報を絞る

- ✓ ワンスライド・ワンメッセージ
- ✓ 不要な装飾は避ける
- ✓ 文字や画像は最低限
- ✓ 多色、枠線、立体、影はNG

● 要素を整える

- ✓ 色の役割を決める
（背景、文字、メイン、アクセント）
- ✓ 徹底して揃える（大きさ、配置）
- ✓ 改行は区切りよく（泣き別れしない）
- ✓ 行間を開ける

学びやすい環境づくりのコツ・ポイント

● 会場を確保する

- ✓ グループワークの場合、テーブルで島を作るので、**2倍の広さが理想的**
- ✓ 最低でも1.5倍は確保

● テーブルで島を作る

- ✓ **1班6人程度**（4～8人が許容）
- ✓ **長机2台**（模造紙を置ける広さ）
※心理的距離が縮まる
- ✓ **私物置き場**や、**WS用グッズ置場**も作る

● ファシリテーターを配置

- ✓ 参加者に**ルールを守らせる**
- ✓ **話し合いを促進する**
 - ・「●●さん、あなたの意見はどうですか？」
 - ・「どこがいいと思いますか？」
- ✓ **困った人に対応する**
 - ・自分の意見に固執する、相手の意見を聞かない、一人だけ話し続ける、声が大きく威圧的
 - ・対角線上に立って、その人の発言にうなずかない

付箋紙1枚に、
1つの意見

● グループ分けをする

- <グループ分けの要素>
- ・ **似た地域特性**の人たち同士
 - ・ **近い地域**の人たち同士
 - ・ **幅広い年齢層**
 - ・ **男女を混在**させる

3

消防庁が提供する教材の紹介

自主防災組織のリーダー育成に
活用できる教材等をご紹介します

消 防 庁

自主防災組織のリーダー育成のための 教育・訓練カリキュラム

<https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/ikusei007.html>

https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/post-56/09/training_program_example.pdf

自主防災組織のリーダー育成のための 教育・訓練カリキュラムの概要

- **市区町村等の担当者が、地域特性や自主防災組織の現状等を踏まえつつ自主防災組織のリーダーを育成するため、または研修会等を企画する際に活用**いただくことを念頭に作成
- **標準的な学習項目を網羅的、体系的**に示している
- **育成の対象は、自主防災組織の代表者**だけでなく、防災資機材等の整備や研修訓練等の企画・実施など、**特定の活動の中心となる立場（防災部長や各班長等）の方**
- **研修プログラム例を例示！**

自主防災組織のリーダー育成のための
教育・訓練カリキュラム

1. **防災リーダーの役割・住民（構成員）の自助意識を高めるには**
2. 災害から住民の命を守るには
3. 避難所の運営を円滑に進めるには

後ほど教材を説明

研修プログラム(例)

研修プログラムは、
「座学」と「ワークショップ」等を
組み合わせています

ワークショップ
(演習)

テーマ2「災害から住民の命を守るには」プログラム	
■目的	身の安全を確保するため、適切タイミングで避難行動を行うための方法や、関係者と連携しながら要配慮者を支援し避難行動を行うために必要なスキルを身につける。
■対象者	自主防災組織
■時間	3時間

【講義・ワークショップ】(全180分)						ワーク	
単元	大項目	中項目	目標	頁	学習内容(案)	所要(分)	
-	-	-	-	0	本教材について	0	
		災害時にとるべき行動 (全般) <G26>		1	1. 自分の命を守るための避難行動(表紙)	0	
				2	学習目標と内容	1	
				3	(1) 避難行動の基本	0	
				4	避難行動で困ること	1	
				5	避難行動とは	1	
				6	避難に対する基本姿勢	2	
				7	地震と風水害の避難行動のちがい	2	
				8	(2) 身の安全を確保するための避難行動(地震・津波災害)	0	
			避難に関する情報の収集 <G27>		9	【問】自宅にどのような地震・津波災害のリスクがあるか理解できていますか?	1
					10	命をおびやかす地震・津波災害時の主な被害	1
				11	命をおびやかす被害 「建物倒壊」	2	
				12	【参考】令和6年能登半島地震における建築物等の被害の状況	-	
				13	命をおびやかす被害 「津波、土砂災害、火災」	2	
				14	【問】自宅にどのような地震・津波災害のリスクがあるか確認しましょう	1	
				15	【個人ワーク】自宅・地域の状況チェック	3	
				16	■■市の地震・津波ハザードマップの見方	3	
				17	避難場所と避難所のちがい	2	
				18	【個人ワーク】地震・津波災害リスクチェック	5	
		安全な避難行動<G28>		19	【グループワーク】結果を共有する	5	
				20	【問】地震・津波災害時における私の避難行動を明らかにしましょう!	1	
				21	地震・津波災害時にとるべき行動の流れ	2	
				22	建物倒壊・津波からの避難	1	
				23	【参考】津波警報・注意報の種類	-	
				24	土砂災害・延焼火災からの避難	1	
				25	【問】地震・津波災害時の安全な避難先・避難経路を確認しましょう	1	

単元 学習項目(大) 学習項目(中) 学習内容(学習項目の概要) 所要時間

研修教材（スライド、補助教材）

自主防災組織のリーダー育成のための研修教材等

自主防災組織のリーダー育成のための教育訓練カリキュラム・プログラム例

[自主防災組織のリーダー育成のための教育訓練・カリキュラム・自主防災組織のリーダー育成研修プログラム例](#) 

研修教材（令和5年度版）

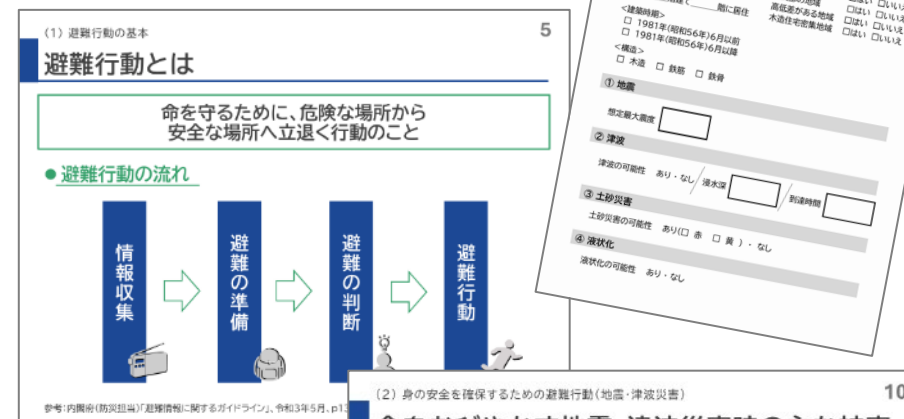
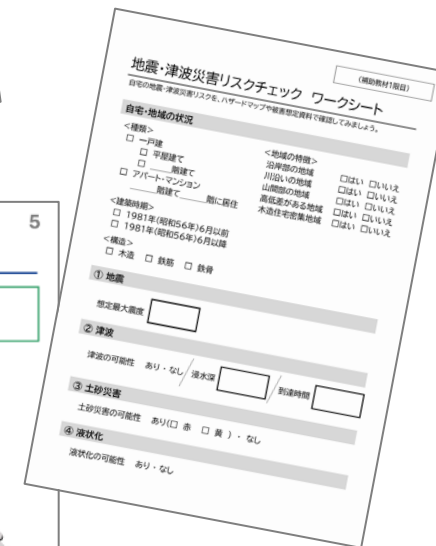
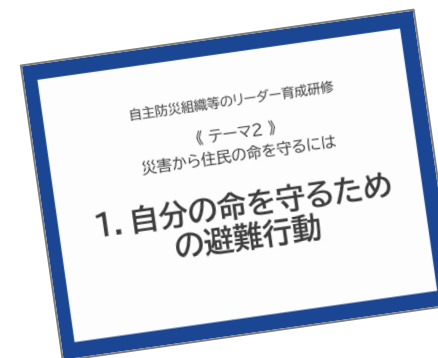
プログラム別

[テーマ1 防災リーダーの役割住民（構成員）の自助意識を高めるには（zipファイル：38.2 MB）](#) 

[テーマ2 災害から住民の命を守るには（zipファイル：12.1 MB）](#) 

[テーマ3 避難所の運営を円滑に進めるには（zipファイル：2.3 MB）](#) 

単元別



命をおびやかす地震・津波災害時の主な被害



消防庁の教材を確認しましょう

その他、教材・ツール

消防庁・ 自主防災組織の手引

https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/items/bousai_R5_3.pdf

内閣府・「地域防災リーダー入門」 テキスト

https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/gen-sai/leader_text.html

消防庁・ 防災・危機管理eカレッジ (こども向け、一般向け)

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/index2.html>

静岡県・ 避難所運営ゲーム(HUG)

カード避難所運営をみんなで考える、具体的で・実践的なゲーム

<https://sswa.jp/article/394.html>

国土交通省・ マイ・タイムライン

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/index.html>

チームクロスロード・ クロスロード

災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を参加者同士共有するゲーム

<https://maechan.net/crossroad/toukou.html>

消防庁やその他教材・ツールを
活用しましょう！

地域特性や災害特性に合うよう
カスタマイズしましょう！

まとめ

- 理解しやすい流れのプログラム、教材をつくる
- 座学ばかりでなく、ワークショップや実技を組み合わせる
- 既存の教材・ツールをカスタマイズし、効率よく準備する
- 地域人材の育成は「地味」な活動。大事なことは、研修の内容が「地域特性」や「災害特性」とマッチングしている
- 取組の背景に「理論・信念・熱意」が伴い、それを住民と共有できる
- 変化は必ず生まれます！